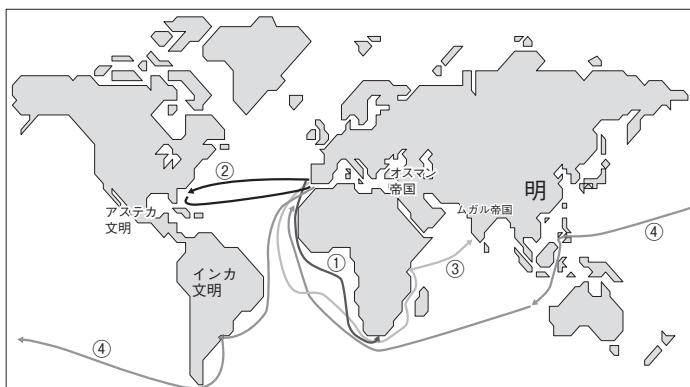


3-3 「南北問題」を真に理解するには、「大航海時代」を知らねばならぬ！



①バルトロメウ＝ディアス ③ヴァスコ＝ダ＝ガマ
②コロンブス ④マゼラン

北＝開発国(**developed countries**)、南＝開発途上国(**developing countries**)という図式は、15世紀末に生まれた。コペルニクスの地動説(**heliocentrism**)を信じたヨーロッパの航海者が、大西洋やインド洋(**the Indian Ocean**)を渡ることによって、世界は一気に広がった。それまでモンゴルやイスラーム勢力に押されていたヨーロッパは、20世紀にアメリカが覇権(**hegemony**)を取るまで、世界の支配者という地位を不動のものとした。しかし、ヨーロッパのアジア・アフリカへの進出が、現代に続く南北問題(**the North-South Divide**)を作り出したのである。

■ 大航海時代を主導したのは、ポルトガルとスペイン！（15～16世紀）

ヨーロッパの西端に位置し、大西洋に面したイベリア半島のポルトガルとスペイン(**Portuguese and Spain in Iberian Peninsula**)が、最初に大西洋に進出した。当時、地球は平たく、その果てでは海水が大滝のように落ちていると信じられていたが、15世紀イタリアの天文学者トスカネリ(**Toscanelli**)が地球球体説(**the theory of a spherical**

Earth)を唱えたことで、大西洋の西への航海に挑戦する者が続出した。その航海者たち(**explorers**)の冒険を表にしてまとめてみよう。

年号	名前	業績
1488	バルトロメウ＝ディアス (Bartolomeu Dias) supported by Portugal	アフリカの南端に到達。「嵐の岬」と命名=のちに「喜望峰」(the Cape of Good Hope)と改名される。
1492	コロンブス(Columbus) supported by Spain	西インド諸島(the West Indies)に到着＝アメリカ新大陸の発見。
1498	ヴァスコ＝ダ＝ガマ (Vasco da Gama) supported by Portugal	喜望峰を迂回して、インドのカリカットに到着＝南東航路の開拓(arrived in Calicut, opening direct sea route to Asia)。
1519～22	マゼラン(Magellan) supported by Portugal	世界一周(circumnavigate the globe)を成し遂げる＝マゼラン海峡(the Strait of Magellan)を通る南西航路の開拓。

ポルトガル・スペインが冒険者たちのスポンサーとなった(**fund the expeditions**)のは実利を求めてのことであり、アジア・アメリカ大陸への進出(**exploratory expedition to Asia and American continents**)は、むしろ「侵略」(**invasion**)「征服」(**conquest**)といえる。ポルトガルは主に東洋に進出し、モルッカ諸島(**the Maluku [Moluccas] Islands**)を押さえ、香辛料貿易(**spice trade**)を独占した。肉食のヨーロッパ人(**carnivorous Europeans**)にとって胡椒は不可欠な調味料(**essential condiments**)だったので、同等の金と同価格で取引され、ポルトガルに膨大な利潤をもたらした。一方、スペインはアメリカ大陸に進出し、高度な文明(**advanced civilization**)を誇っていたアステカ王国(**the Aztec Kingdom**)やインカ帝国(**the Inca Empire**)を一瞬にして滅ぼし、多数の原住民(**indigenous people**)を惨殺した。メキシコを征服したコルテス(**Cortés**)やペルーを征服したピサロ(**Pizarro**)は、「コンキスタドレス[征服者]」(**conquistadores**)と呼ばれている。